



# 徳川美術館 名品コレクション展示室

令和3年 1月5日(火)~3月28日(日)

凡例：◎は重要文化財、○は重要美術品

展示期間 A:1月5日(火)~1月31日(日) B:2月2日(火)~3月2日(火) C:3月3日(水)~3月28日(日)

D:1月5日(火)~2月19日(金) E:3月3日(水)~3月28日(日)

## 【第2展示室】

# 大名の数寄 - 茶の湯 -

桃山時代に武将の間でも流行した「侘び茶の湯」は、江戸時代には「御数寄屋」の接待として、公式行事の一部に組み入れられた。こうして固定された茶の湯は、「侘び茶の湯」の持っていた美や新たな価値観をうち立てて行く自由な創造の精神を失って武家故実となり、格式行事と化した。大名は邸に茶室を設け、将軍の「御成」をはじめ、晴の行事に備えた。茶の湯道具もまた格式道具となった。桃山時代に武将や上層町衆や数寄者が持っていた道具の大半は、江戸時代には将軍や大名の秘蔵品となり、「名物」の道具は、時に一国一城にもあたるとされ、その所持、非所持が家の格を表すとまで評された。

No.	名 称	作者・所用者・所蔵者など	時代	世紀	期間
猿面茶室					
1	和歌懐紙「寄鶴祝」	徳川宗勝(尾張家8代)筆	江戸	18	A
2	二大字「雄嶋」	清巖宗渭筆	江戸	17	B
3	和歌色紙「よしの山」	徳川家光(3代将軍)筆 藤田男爵家・森川勘一郎(如春庵)旧蔵	江戸	17	C
4	青磁下蕪形花生		南宋	13	
5	芦屋松竹梅文罈付釜		桃山	16	
6	伊賀瓢形水指	岡谷家寄贈	桃山	16-17	
7	古瀬戸肩衝面取手茶入		室町	15	
8	黒樂茶碗 銘 横槌	伝樂二代目長次郎作	桃山-江戸	16-17	AB
9	井戸茶碗 銘 磯清水	岡谷家寄贈	朝鮮王朝	16	C
10	竹茶杓 歌銘 鶴	杉木普齋作	江戸	17	AB
11	竹茶杓	常叟宗室(不休齋・裏千家5代)作	江戸	17	C
12	大色紙「はるくれは」	伝藤原公任筆	平安	12	A
13	束帯天神像	益叟福謙賛	室町	14-15	A
14	拾遺集切「春たつと」	伝藤原定家筆	鎌倉	13	B
15	貝雛図	小田切春江筆	江戸	19	B
16	◎ 熊野類懐紙「花有飲色」	藤原公経筆 井上馨旧蔵・岡谷家寄贈	鎌倉	正治2年<1200>	C
17	和朝曲水図	田中訥言筆 大脇家寄贈	江戸	文化9年<1812>	C
18	古銅水襷文獸耳花生	徳川義直(尾張家初代)所用	明	16	
19	三島牡丹文俵形花生		朝鮮王朝	15-16	
20	鉄絵雲鶴兔文水指		明	15	
21	唐物茶壺 銘 雄嶋 名物		南宋-元	13-14	
22	梅花天目		南宋	12-13	
23	高麗雲鶴茶碗 歌銘 高浜		朝鮮王朝	17	
24	○ 紅安南草花文茶碗		ベトナム	16	
25	黒塗利休形短檠 楽々園焼火皿・油皿		江戸	19	AB
26	朱塗手燭(花月手燭)	中村宗哲(7代)作	江戸	19	AB
27	染付拍子木香合		明	16-17	C
28	金彩鯨香合	樂旦入(樂家10代)作	江戸	19	C
29	赤染ぶりぶり大香合	今井正徳氏寄贈	江戸	19	C
30	金欄手唐子文仙蓋瓶		明	16	D
31	志野山水文茶碗 銘 残雪	木下家寄贈	江戸	17	E

### 特別公開 泪の茶杓 展示期間：2月20日(土)~3月2日(火)

千利休竹茶杓 銘 泪 名物 古田織部・徳川家康・徳川義直(尾張家初代)所持 桃山時代 16世紀

豊臣秀吉に切腹を命じられた千利休が自ら削って最後の茶会に用い、古田織部に与えたと言われる茶杓である。その後、織部はこの茶杓用に長方形の窓をあけた筒をつくり、その窓を通してこの茶杓を位牌代わりに挿したとも語られる。※毎年2月28日(利休忌)頃に、約10日間公開。